


教科名	対象学年	使用した資料（参考にした資料）	TYPE
社会	小学3年	授業アイデア集【小学校版】p21, 22	Ⅱ

授業内容	学校のまわり、町の様子を調べよう。
身に付けたい力	方位や地図記号を理解することができる。

<table border="1"> <tr> <th>教科名</th> <th>対象学年</th> <th>学校名</th> <th>課題の見られた問題</th> <th>TYPE</th> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>3年</td> <td>熊谷市立別府小学校</td> <td>25年度 県 6</td> <td>Ⅱ</td> </tr> </table> <p>授業の内容 学校のまわり、市の様子を調べよう。</p> <p>身に付けたい力 方位や地図記号を理解することができる。 地域の様子には違いがあることを考え理解できる。</p> <p>【東西南北指さし確認】 北を向いて、後ろが南、右手が東、左手が西など正しい方位がわかる活動。</p> <p>実践のポイント ①リーダーを先頭に、東西南北の確認を行う。 ②リーダーが「これから、東西南北指さし確認を始めます。」と言う。 ③リーダーが右手を出し、「ひが～し～」と言う。 続いて、全員が「ひが～し～」と言う。 以下同様。 ④左手を出し、「に～し～」、全員で「に～し～」。 ⑤両手を後ろに、「みな～み～」、全員で「みな～み～」。 ⑥最後は、元気づく両手を前に、「きた！」、全員で「きた！！」。</p> <p>◎効果 ・自分の体で覚えることができるので、必要なときに思い出しやすい。 ・方位磁針の針を北に合わせ、四方位を調べることができるようになる。</p> <p>【授業のポイント】 ○授業開始5分以内で終わるようにする。 ○リーダーを中心に、実践できるようにする。 ○必ず、自分が「北」を向いていることを意識し行う。</p> <p>チャレンジ</p> <p>【熊谷市を言い表してみよう】 市の位置を広い視野からとらえさせることができるようにするために、 方位を使って、隣接する市とどのような関係にあるのか、県全体から見てどのような位置にあるのかを言います。 「熊谷市は、深谷市の東にあります。」 「熊谷市は、県全体の北の方にあります。」 「熊谷市は、行田市と東松山市と深谷市などに囲まれています。」</p>	教科名	対象学年	学校名	課題の見られた問題	TYPE	社会	3年	熊谷市立別府小学校	25年度 県 6	Ⅱ	<p>【地図記号作文】 地図記号を使って作文をし、班で読み合って解説する活動。</p> <p>実践のポイント ①記号作文を作る条件と例を示す。 ・学校からスタートして、ある場所までを地図記号を使って作文にする。 ・地図記号は3つ以上使う。 ・作り話をに入れてよい。 (例)「文を出て卍を曲がると、㊦がある。そのそばの㊦にインタビューに行った。そこを東に行くと、㊦があり、その先が×た。」 ②作文ができたら、班の中で回して見て、記号作文を読み取る。 ③「地図記号を使った作文を作り、読み取ることによって地図記号を覚えます。」と事前に伝えると、目的意識が高まる。 ④学区の地図を使って、ワークシートをあらかじめ作り、そのシートを基に活動をするのも考えられる。 ⑤短時間で行う場合は、教師側で地図記号カードを使用し、児童に指し示すことも考えられる。</p> <p>◎効果 ・作文に地図記号を書いたり、記号作文を何度も読み取ったりすることで、地図記号に慣れ親しむことができる。 ・学区にある主な施設の位置関係についても、作文を読み取りながら理解することができる。 ・地図帳を使った活動を主としているので、地図帳の活用につながる。 ・自主勉強の1つとしても活用できる。</p> <p>【授業のポイント】 ○授業開始5分以内で終わるようにする。 ○書く活動は時間を必要とするので、授業時間以外で行うことも考えられる。</p> <p>チャレンジ</p> <p>【地図記号コンテスト】 地図記号により興味関心を持たせ、意味を理解させるために、 教師がテーマを出して、児童がその地図記号を考えて、書き表す。 (例) サッカー場・プラネタリウム・プール・遊園地 など。 この活動を通して、地図記号に興味を持たせるだけでなく、単純化し、さらに意味を残していることを理解し、地図記号の工夫に気付くようにする。</p>
教科名	対象学年	学校名	課題の見られた問題	TYPE							
社会	3年	熊谷市立別府小学校	25年度 県 6	Ⅱ							

【授業のポイント】（東西南北指さし確認）
○授業開始5分以内で終わるようにする。
○リーダーを中心に、実践できるようにする。
○必ず、自分が「北」を向いていることを意識し行う。

【授業の様子】
・学習の始めのあいさつをした直後に実施した。リーダーの児童が元気良く発声し、リズムに合わせて取り組むことができた。体の動きも取り入れているので児童は楽しそうに行っていた。



【効果】
・東西南北についての理解ができていない児童も、感覚的に方位を理解することができるようになった。また教室から見た方位や、校舎内の方位についても確認ができた。日常生活において、「東階段」や「校庭の南側」等、方位を用いた会話ができるようになった。

【留意点】

- ・北を向いて行うことが前提の確認方法であることを忘れないようにする。
- ・方位磁針を用いての確認も同時に行うとより定着すると感じた。
- ・授業時間の確保のため、素早く行えるようにする。
- ・8方位については、追加して説明する必要がある。

【授業のポイント】(地図記号作文)

- 授業開始10分以内で終わるようにする。
- 大きな声でゆっくり発表させ、進んだ方向を指で追えるようにする。

実践のポイント

①記号作文を作る条件と例を示す。

- ・学校からスタートして、ある場所までを地図記号を使って作文にする。
- ・地図記号は3つ以上使う。
- ・作り話を入れてよい。

(例)「学校を出て北に向かい、神社でお参りをした後、東に向かって進み、温泉に入った。」

②作文ができたなら、一人ずつ学級全体で発表をする。

③発表を聞きながら、指で進んでいる位置を確認する。

※地図記号作文に用いる地図は、あらかじめ作成しておき、同じ地図上で作文を作らせる。

【授業の様子】

- ・東西南北指差し確認の後、続けて行った。児童一人一人がオリジナルの話を作成していたので、発表する児童も聞く児童も、楽しみながら意欲的に取り組んでいた。



【効果】

- ・地図上の斜めの位置(北東、北西、南東、南西)に進む場合、8方位を用いる必要があるので、8方位についてより深く学習することができた。

【留意点】

- ・児童が使用する地図の作成は、地図記号や8方位が自然に使えるよう、配置を意図的に作成する必要がある。
- ・方位や記号を誤って説明してしまうと、聞いている児童が混乱してしまうので、必ず児童の作文の内容に、誤りがないか確認した上で行わせる。